

特 67

366

いな燈の足が吾は語聖の  
節五百章九十百篇詩

手童  
引蒙

聖語集

附日曜學校聖歌

後編

書科教校學曜日

たみずき 人輯編

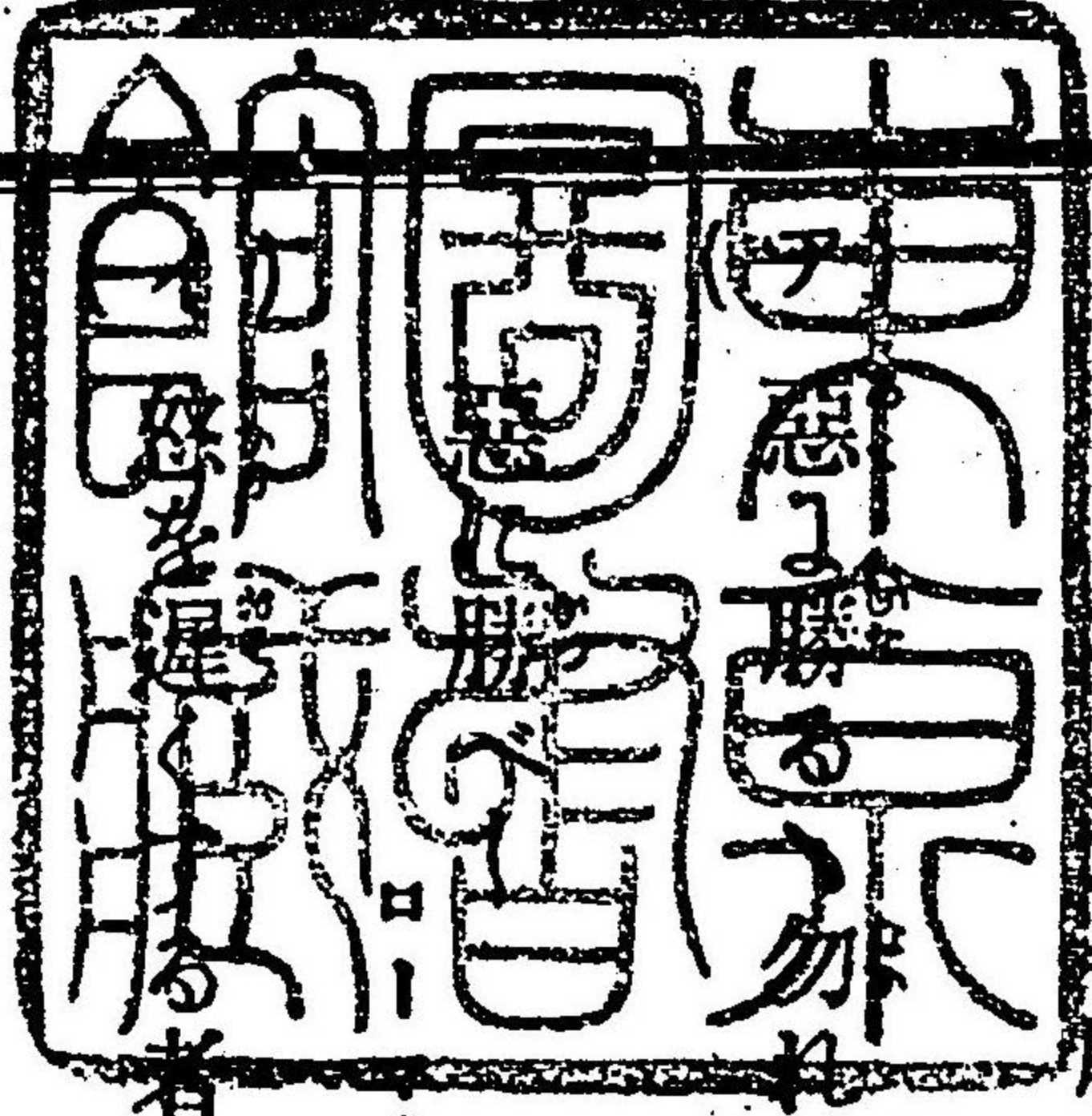
(非賣品)

成島市青島町三十四番地山手活版所 (印刷)

童蒙聖語集後編

附日曜學校聖歌

聞くのみにして自己を欺く者とな  
る勿れ



◎五十番順

善を以て

十二〇廿一、

者ハ勇士に

愈れり

歳十六〇卅二、

嬰兒乳哺者の口に讚美を

聖歌

○第一 (聖歌集第二百三)

一 はるかにあふきみる  
かがやきのみに、  
みかみのろなへ母し  
たのしきすみかあり  
わきらいまにかがやけるをかにて  
またるどもに君のみまへ母あはん  
二 かがやくろのをうよ  
うきもなやみもなく  
たのしきこあはせ  
たえずどもにうたわん



(ウ) 受るよりも興るの福なり  
徒二十〇卅五、

(エ) エホバに倚頼むものハ福

ひなり 箴十六〇二十、

(オ) 行を端正して畫あゆむ如

くすべーローマ十三〇十三、

(カ) 隠て明瞭にならざるはな

三 ゆたかなるめぐみの

ちしをこそよへめ

このみ母あまるまで

うけにしさちのよめ

○第二 (聖歌集第二)

一 つちにすむたみよ

エホバのはまれと

イエスキミのみなを

わねくたへよ

二 さみのみめぐみも

やこともうはらじ

ひのてらすかぎり

みはまれひいかん

三 く母たみあざりて

救ひをよ母ひろめ

さみのなをたかく

よろこびたへよ

四 さみのみさうえを

はひべさく母びと

どもにうたひろめ

よにしさひろめよ

○第三 (聖歌集第三)

一 もろたみよ

あめつちに

かみのさかねを

二 うみくがも

みちからの

いう母くせしき

三 みことばに

さみがまへ

さうげまつらなん

四 いよさみの

みまへにきたり

ひいかせうたへ

かたちならし、

さみがみわざは

われをみとせし

みもたましひも

みもとのりき、

(ケ) 血肉ハ神の國を嗣こと能

る眞神よ事へ 帖前一〇九、

(ク) 偶像をすて神に歸して活

をを徐すべー 雅一〇九、

(キ) 聴ことを速かに語ること

く藏て露れざる者ハあー  
可四〇二十二、

はず

哥前十五〇五十、

(コ) 心のたのしみは良薬なり

靈魂のうきむは骨を枯す  
箴十七〇廿二、

(サ) 智者のくちびるは智識を

むろむ思なる者の心は定

りあゝ

箴十五〇七、

(シ) 忍て試誘を受くる者は福

なり

雅一〇十二、

(ス) 少く播者は少く獲りれば

く播者は多く獲るべし

哥後九〇六、

(セ) 善を行むて倦こと勿れ

帖後三〇十三、

(ソ) 害ふ者を祝し之を祝して

みたみらと

きみなるきみ母

いさみまつらへ

五 このひとく

みこあさかきば

すあつひよ

あまつよつぎを

うけうべしや

〇第四

(聖歌集第四)

一 かみよみなを

た、へしめよ

われにも

とみさかふる

貴とさち、よ

わがこ、ろを

をさめよ

二 こなるさみよ

いのるわれよ

きたれよ

いとめさよさ

みめぐみをば

ろ、きたまへ

みたみ母

三 なぐさめゆる

あかしをたまふ

みたまよ

さよきたみと

とめよやどり

そのこ、ろな

はなさる

四 貴とさち、と

ことみたまの

みかみよ

あまつくに、

みなのさかぬ

た、へまほし

よ、まを

〇第五

(聖歌集第五)

一 いまよいたるころ

さみのちからなき

ろのいつくしみ

ひいにあらたなり

二 ひなしくすぎこし

わがつみをゆるし

なほす、むためよ

みちからをあたふ

三、みかみのまもりよ

誼のりふべからず

ローマ十二〇七四、

(タ) 驕傲たうごうは滅亡ほろびにさきだち誇ほこ

る心こころは傾たがれ

箴十六〇十八、

(チ) 智慧ちゐは眞珠しんじゆに愈よれり凡すべの

寶たからもこれに比くらぶるに足たら

変

箴八〇十一、

(ツ) 謹慎つしん傲醒まもなんぢらの敵あだな

る惡魔あくま吼ほる獅子ししの如ごとく徧へ

行ゆて吞のむべき者ものを尋たづぬ

彼前五〇八、

(テ) 天てんに在います爾曹なんぢらの父ちちの完ま全つた

か如ごとく爾曹なんぢらも完ま全つたすべし

馬太五〇四十八、

(ト) 友ともの爲ために己おのれの命いのちを捐なするは

わがみをばまうせ

いとむやすらかよ

ねふりにつくべし

四 よをさるとさうく

みいつちにふすむ

おきよとよびたまふ

主しゅのみこゑをまつ

〇第六 (聖歌集第八十六)

一 つみのゆるしを ぬしともの

かくこそやすく ひをおくき

うさねなみかせ たちくるも

こゝろにあめの やすきあり

二 どきりにさえぬ たのしみの

こゝろにみてる みたまらひ

のぼるあさひと はせやかに

ゆふべのみららと しづかなる

三 わまつみくにの どきりぎの

すゞしきかげを まつともの

かたりえがたさ たのしみは

ろのかもてにぞ みえにける

四 こがねしろかね なべてよの

たからもの、 かせとせぬ

さみがみたみの わまつよの

たのしみをこころ ひいにまで

〇第七 (聖歌集第二百七)

一 うきよのさから たのまぬわれ

あまのぼりてぞ さみとすまこん

あめなるくよの ふみのうちよ

さみよどがなひ しるされしや

てりうぐやく ろのみふみよ

二 いかりお きみよわがなひ しるされしや

まさこのごとく つみひをばくも

此より大なる愛はな  
約十五〇十二

(ナ) なやみの日に我をよべ我

爾曹を援けん  
詩篇五十〇十五

(ニ) 肉の事を念ふは死あり  
ローマ八〇六

(ヌ) 盗人うがちて竊む所の地

に財を蓄ふること勿れ  
太六〇十九

(子) 熱心に善を行はゞ誰か爾

曹汝害はん乎  
彼前三〇十三

(ノ) 詛者汝祝し虐遇者の爲め

に祈禱せよ  
路六〇廿八

(ハ) 憚らずして恩寵の座に來

るべし  
希四〇十六

さみのちしほぞ われ母よりぬ  
つみのけがれを ゆきのごとく  
あらしひきよむと みちかひあり  
しらゆきのごと いともさよき  
あめはすむたみ なほぞてりそふ  
けがれしものも なさみやこよ  
さみよわがなハ しるされしや

〇第八 (聖歌集第二百三十八)

一 イエスぞともなる はげみす、め  
イエスぞともなる はげみす、め  
かつべきみちから  
あふへてすあまで まもりたまはん  
イエスさみのしるべ  
さみのしるべ母て  
わきよろこびつ、  
いさみてふ、かふ

かつべきみちから  
わたへてすあまで まもりたまはん  
さけくさ、かへ かつぞうべき  
さけくさ、かへ かつぞうべき  
つみにかちえさる

救ひぬしイエスこそ わがさみなき  
イエスさみのしるべよて  
とさよろこびつ、  
いさみてふ、かふ  
つみにかちえさる

救ひぬしイエスこそ 己がさみなき  
かちしそのとき みまへよん、ん  
かちしそのとき みまへよん、ん  
かいやくあめにて  
イエスさみのほまれ  
よした、へなん

(ヒ) 人みお巳の益を求るなく

各人の益を求むべし  
哥前十〇廿四、

(フ) 再び罪を犯す勿れ

約八〇十一、

(ヘ) 謙遜の尊貴に先だつ

箴十六〇卅三、

(ホ) 施濟をする時右の手の爲

事を左の手に知する勿れ  
太、六〇三

(マ) 眞理の爾曹に自由を得よ

すべし  
約八〇三十二、

(ミ) 妄なる益なき談を避くべ

提後二〇十六、

(ム) 鞭をくへへざる者への

子を憎むあり箴十三〇廿四、

イエスキミのしめべ

キミのしめべにてわれよろこびつ、  
いさみてたゝかふ

かゝやくあめにて

イエスキミのはまれ

よゝたゝへなん

〇第九 (聖歌集第二百四十二)

一 いまのうきよをさるるとき

はるかにみゆる

たのしきあめのをうにて

まよふあはん

たまのかどりよ、ひらけ

ときはのききあるくは、

救はきしみたまらの

すみろぞある

二 かゝやくあめのみくに、

よのゆめさめば

きよきながきのかたへに

またもあはん

三 ささだつわがみちのとも

きみがみまへに

さかえのみかむりをめで

わきをまたん

四 うきもたゆるみくににて

またあふそのとき

きみのみもとにたのしく

よゝすみなん

〇第十 (聖歌集第二百二十四)

一 みまのまへにたつこらひどもに

ゆるしをうけてぞよろこびうたふ

わが主に、みさかえあきと

二 たがともなひこしあまつくに、

(メ) めいひの者警者の相せば

二人とも溝に落べー  
太十五〇十四、

(モ) 惴れる者の途へ荆棘と罟

とあり  
箴廿三〇五、

(ヤ) 溫柔き言の潔白  
箴十五〇廿六、

(イ) 命に至る路へ窄く其門は

少く其路を得もの少あり  
太七〇十四、

(ユ) 救る、こと少き者は其愛

も亦少あり  
路七〇四十七、

(エ) エホバの目は何處にあり

て悪人と善人とを鑒みる  
箴十五〇三、

(ヨ) 喜ぶ者と共に喜び哀む者

たのしくおきふしうたふるところ  
わが主によ、  
みさかえあせと  
三 さまみのがらしはながしければ  
さよめられてころかくもうたへ  
わが主によ、  
みさかえあれと  
四 みのよに主のなをめでにければ  
いまみうはみてぞはめつ、うたふ  
わが主によ、  
みさかえあれと

○第十一 (聖歌集第二百十二)

- 一 あめなるみうどの ひらけしまより  
もれせるひかりの 主のいつくしみ  
こよあさめぐみや あめなるみかど  
わがため ひらかれしや
- 二 ひらけしみかどをた、さだにせば  
いづこのよびとも もる色すいるべし
- 三 あだをふせぎつ、みかどにいそげ

うさをもしのびて かつのひをまた  
四 みまへののぼるひ 十字架より  
みかひりりうけてぞ  
主をたへまし

○第十二 (聖歌集第二百三十)

- 一 さみがみたみらの ふめにそなへし  
かやくみくよ、ゆくよしもがな  
どこよのくよにて まつとがともの  
たのしむすみかに ゆくよしもがな  
かやくあめにて よぶとがさみに  
たちゆくとがみを ひさなととめそ  
二 うさもかなしみも あらぬみくよ、  
のはりてあふる、  
みめぐみうけなん  
とさののさかえよ まねかれゆけば  
といまるべしやのこ、にしばしむ



と共<sup>とも</sup>に哀<sup>あはれ</sup>むべし

ローマ十二〇十五、

(ヲ) 老婦<sup>ろうふ</sup>も聖潔<sup>せいけつ</sup>は合<sup>あは</sup>ふ行<sup>ゆ</sup>旅<sup>りょ</sup>

なさん事<sup>こと</sup>と人<sup>ひと</sup>旅<sup>りょ</sup>誇<sup>たか</sup>らず酒<sup>さけ</sup>

旅<sup>りょ</sup>多<sup>おほ</sup>く嗜<sup>たし</sup>まず善事<sup>ぜんじ</sup>旅<sup>りょ</sup>人<sup>ひと</sup>

教<sup>おし</sup>る事<sup>こと</sup>、旅<sup>りょ</sup>勸<sup>すす</sup>べし

多<sup>おほ</sup>二〇三、

(リ) 理<sup>り</sup>は従<sup>したが</sup>ひて律法<sup>りつぽう</sup>旅<sup>りょ</sup>用<sup>もち</sup>べし

提<sup>てい</sup>前<sup>ぜん</sup>一〇八、

(ル) ルツ<sup>ルツ</sup>姑<sup>こ</sup>よいむけるは汝<sup>なんぢ</sup>が

われよ言<sup>ことば</sup>どころは我<sup>われ</sup>皆<sup>みな</sup>な

すべし 路<sup>ろ</sup>得<sup>とく</sup>記<sup>き</sup>三〇五、

(レ) 靈<sup>せい</sup>の事<sup>こと</sup>を念<sup>ねん</sup>ふは生<sup>い</sup>かり安<sup>やす</sup>

あり 羅<sup>ろ</sup>マ八〇五、

(ロ) ロド<sup>ロド</sup>の妻<sup>つま</sup>は後<sup>あと</sup>を回<sup>まわ</sup>顧<sup>り</sup>たれ

三 かなきこのよよ

色<sup>いろ</sup>なとどまらん

四 色<sup>いろ</sup>なみのころのうさなやみのみ  
かけよしのぞみもちりゆくはなと  
あへなきこのよをさるよしもかな  
うさひのなみだもつきてたらしさ

五 色<sup>いろ</sup>のなみくよ、ゆくよしもがな  
くちせぬいのちをうけてぞそこよ  
たかさこあわとせ  
よろこびうさひん

五 みるにのたまらはたえまねけば  
このよのさびぢをいそぎゆかまし  
さへもあやしきあまつことこのね  
のぼりてさくひをまつよさへじな

○第十三 (聖歌集第五十四)

一 インマエルのちのろのいづみよ

二 あらいつみびとさよめをうけん  
十字架<sup>じゅうじや</sup>のぬすびと いまのとき  
ろのいづみをみて よろこびけり

三 いやしき色<sup>いろ</sup>さへるのいづみに  
けが色<sup>いろ</sup>ももらさき たらひさよめん  
四 さよひるいづみのあがきさえじ  
みかみのたみみな救<sup>すく</sup>へる、まて

五 色<sup>いろ</sup>まご、ろにてみしながれを  
よろこひのめと、た、へをこらん  
六 いまのよのこあのみさゆるのちも  
色<sup>いろ</sup>がたまみそらにた、へついかん

○第十四 (聖歌集第九十七)

一 イエスよこ、ろにやどりて  
色<sup>いろ</sup>れをみやとなしたまへ  
けがれにらみしこのみを  
ゆきのごとくしろくせよ

ば鹽は柱となりぬ

創世記五〇廿六、

(ワ) 我は途あり真あり生命あり

約十四〇六、

(井) 虚偽の口を汝より棄てさ

り惡き口唇を汝より遠く

へなせ 箴四〇廿四、

(ウ) 怨恨の争端を起し愛へす

べての愆を掩ふ箴十〇十二、

(エ) エホバを畏る、ことハ生

命の泉なり 箴十四〇廿七、

(ナ) 懶惰ハ人を酣寐せ去る懶

怠人ハ飢へ去 箴十九〇十五、

二 己がつみをあらひて

ゆきのごとくしろくせよ

三 われらのためイエスキミは

ちしはをながしたまへば

四 己れらはイエスにまかせて

みるたまさ、げまつらん

己がつみをあらひて

三 己れらハいまひたすらに

みまへにふしねがへば

つみにうまきしこ、ろを

いまあらたになしたまへ

己がつみをあらひて

ゆきのごとくしろくせよ

四 ぶかさめぐみのちしはに

きよめらる、ごうきしき

いのりをき、たまふかみよ

みなをわがめさせたまへ

わがつみをあらひて

ゆきのごとくしろくせよ

○第十五 (聖歌集第百十七)

一 わめなるわがやをあらふきみよば

二 なみだもみそれるさりとす、まん

三 はげしきこのよのわたのうちん

四 おちくるひやをばふせきてたたん

三 かなしみわがみに わめとふれど

四 たいあふぎみつ、のはるわがや

つゆのうさもなさあまつくに、

つかせしわがたまへ

あかくやすまん

○第十六 (聖歌集第百四十)

一 あふるゝめぐみの いづみなるまよ

さよきそのながき  
 かぎりなくあき  
 二へのこのの  
 しらしめよまへ  
 三えぬみめぐみの  
 あるぞうきしき  
 二 いまよいさるころ  
 かみの助けなれ  
 なほみむねよより  
 どぐくふるさと  
 まよひしわがさめ  
 みらせしイエスの  
 あやふさみちより  
 四それをば救へり  
 三 ひごとのみめぐみ  
 あいひくいがし

ひがめるわがま  
 さみよむすばなん  
 つねまよひやすき 己きをまもりて  
 このしきみくにの たみとしたまへ  
 ○第十七 (聖歌集第百二十一)  
 一 わめはすゝみゆくたびぢをみちびく  
 主のてよひうれて あゆむぞうれしき  
 貴とささみイエスの ろのともとなりて  
 いみてにひうきつゝ あまのぼるわきの  
 二 いぶせさなりにも はささくさとよる  
 わきにもなきにも  
 主ぞみちびきたまふ  
 三 貴とさ主よみてに ひうれゆかまほし  
 いうなるをりにも われつふやくまじ  
 四 よにうつろのとき さみともなひなば  
 しのうのこゆとも われをそるべしや

童蒙手引 聖語集後編終

十 誠

- 五 なんぢの父と母とを敬へ。なんぢの神エホバのなんぢも賜ふる地の上  
 よおいてなんぢの命を永からしめんが爲なり。
- 六 殺すこと勿かれ。
- 七 姦淫すること勿かれ。
- 八 盗むこと勿かれ。
- 九 隣人について偽の證據を立ること勿かれ。
- 十 隣人の家を食べること勿かれ。隣人の妻とその下僕、下婢、牛、驢馬、またす  
 べて隣人の物を食ふること勿かれ。

使徒信經

われは天地の造主能はざる所なき父なる神を信すわれのその獨子われらの

主イエス、キリストを信ぜ。彼の聖靈によりてはらみし處女マリアより生れ  
ポンテオピラトの時苦を受け十字架につけられ死して葬られ三日目に死人  
の中より甦り、天にのほり能はざる所なき父なる神の右に坐し、彼所より生  
ける人と死せし人とを裁判せんがために、來り給はんを信ぜ。われは聖靈を  
信ぜ。われは聖公會聖徒の 交罪の赦身體の甦、限なき生とを信ずア  
メン。

明治廿四年六月一日印刷

明治廿四年六月九日印刷

兼發行

住 田 吉 太 郎

山口縣玖阿郡錦見村  
三百九拾四番地寄留

山 中 彌 兵 衛

廣島縣廣島市字堺町  
三丁目四拾八番邸

印刷人

